

第50期事業報告書

平成8年4月1日から平成9年3月31日まで

A close-up photograph of a green leaf, showing the intricate network of veins. The leaf is the central focus, with its veins clearly visible against the green background. The lighting is soft, highlighting the texture of the leaf's surface.

技術と独創性で、医療の明日を切り拓く。

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当社の事業活動に格別のご支援を賜わり、厚くお礼申し上げます。

ここに第50期の営業概況をご報告申し上げます。

最近の経済情勢は、やや回復の傾向にあるものの、本格的な回復にはまだまだ時間を要するものと予測されています。このような厳しい環境の中ではありますが、幸い当社の業績は、新製品の開発及び、販売各社をはじめとした営業各部門の努力によって、順調に推移し、売上高は前年比の8.6%増の421億円、利益配当金についても1株18円となりました。

当社は、半世紀を越えて心臓・循環器系医療機器の製造・販売を通して人々の健康に大きく貢献してまいりました。今後ますます高齢化社会が深化して行けば、健康医学や在宅医療、そして予防医学など多岐にわたるニーズはより一層高まると考えられます。当社は、これらのニーズに高性能・高機能・高信頼性で応えることによって、医療機器メーカーとしての社会的使命を積極的に果たしてまいりたいと思っております。また、その信頼のネットワークを世界に広げて「世界のフクダ電子」を目指し、欧州、米国、東南アジアの海外拠点強化などグローバル化をさらに推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒変わらぬご支援・ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。



取締役会長

福田 孝



取締役社長

福田 孝太郎

さらなる技術革新へ。 新たな可能性を追求する、研究開発。



国産初の心電計の開発から、フクダ電子はコンスタントな研究開発投資をベースに画期的な製品の開発を行うとともに、基本に忠実な製品作りを心がけてきました。現状に満足することなく、もう一步先の可能性を追求し高機能・高品質の領域に発展、向上させることに心血を注いできたフクダ電子の歩みは、まさに日本の医療機器の進化の歩みともいえます。また、数々の独創性に富んだME機器群は、「技術のフクダ」を実証するものとして、国内外から高い評価を獲得しています。フクダ電子の研究開発体制は、ハード開発、ソフト開発、機構設計から成り立ち、開発テーマ毎に各部門から専門スタッフを選抜し、さらに欧米の有力メーカーとの提携により新分野・新技術を幅広く取り入れて行っています。また、製品開発のスピードアップと信頼性の向上のために、CAD/CAMによる設計支援体制を整えるなどの整備レベルでの投資も積極的に行っています。

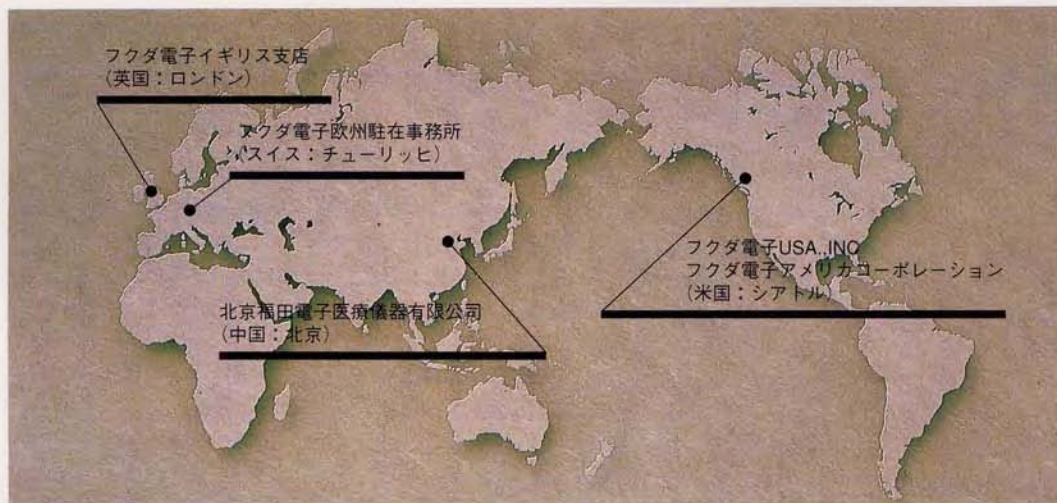


緊密なコミュニケーションの確立。 地域に密着した営業活動。

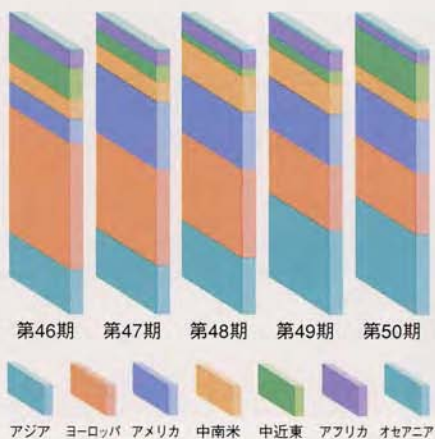


医療の地域性を考慮して、各都道府県に少なくとも1カ所の営業拠点を置き、地域ニーズを重視した地域密着型の営業体制。さらに、いつ、どのような問題が発生するかからない臨床現場に対応する24時間のサービス体制など、緊密なコミュニケーションの確立をフクダ電子は築き上げています。また、市場が拡大している在宅医療やインターベンション医療分野にも積極的に事業展開を行い、確固たる事業基盤を確立しています。現在、フクダ電子のサービスネットワークは、全国44の販売会社と67の営業所・出張所を配置しています。そして単なる製品販売にとどまらない独自のコンサルティング・セールスを展開するとともに、開発スタッフの一員としてユーザーからの意見やアドバイスなどを積極的に収集しています。地域に密着し、さらに現場と直接繋がった緊密なコミュニケーションを持った営業体制は、高い信頼と実績を確実に生み出しています。

世界に拡大する、実績と信頼のネットワーク。



地域別輸出比率推移 (単位：%)



現在、フクダ電子の製品は現地法人販売会社やOEM、各国の代理店を通して世界中で販売されています。平成6年には中国に合弁企業を設立し、心電計・患者監視装置などの中国国内での製造・販売を開始しました。平成8年にはFDACとのスピーディな連携を図り、米国市場でのシェア獲得を強化するためにアメリカ・シアトルに「フクダ電子USA, INC」を設立させ、現地生産の稼働を開始しました。さらにイギリス支店をロンドンに開設し、国際戦略の基盤として欧州・北米・東南アジアの3極販売体制を確立させました。また、この世界のビジネス交流を通して築いた情報ネットワークは、他社に先駆けた新製品開発や、お客様への最新情報提供という形でも大きく役立っています。

積極的に学会や展示会に参加・開催。 国内外からの高い評価を獲得しています。

TOPICS



日本集中医学会 1

福島メディカルフェア 2

日本循環器学会
サテライトシンポジウム 3

日本臨床衛生検査学会
フクダ電子(株)生理学賞授与
日本ME学会
国際ホルタ心電図学会より感謝状を授与 5



6
国際モダンホスピタルショウ
ペースメーカー特別講演会(東京・大阪)
在宅酸素特別講演会(東京・大阪)



7

8 名古屋メディカルフェア

9



10 第12回循環器情報処理研究会

11 T波オルタナンス講習会(東京・大阪)
兵庫メディカルフェア



12

患者監視装置

心電図、呼吸等を無線方式により、監視する装置、高輝度カラー液晶を採用し、より見やすくなり、手術室、CCU等で活躍しています。



解析付心電計

心電図をコンピュータにより解析し、心疾患診断の補助を行うコンピュータ付心電計。



LINE-UP

長時間心電図記録解析装置

夜間を含む日常生活中心電図を24時間連続収録したデータの中から、心臓の異常の有無を判断するシステム。



酸素濃縮器

体に必要な酸素を十分に取り込めない慢性呼吸不全患者に、家庭で酸素を投与するために、空気中の酸素を濃縮生成する装置です。在宅医療で最も使われている装置で、患者さんに大変喜ばれています。





人工呼吸器

呼吸困難な患者に対し、呼吸の補助を行う治療装置。治療時における高い安全性と、人間工学の集約により超未熟児の呼吸管理も可能にしました。

フクダ電子は、創業以来、心臓循環器系を中心としたME機器のスペシャリストとして業界をリードしてきました。国産初の心電計の開発をはじめ、心電図自動解析装置、患者監視装置、ペースメーカー、人工呼吸器、デフibrレータなど独創的で、エポックメイキングなさまざまな機械の開発、販売。つねに業界のバイオニアとして、医療技術の進歩に大きく貢献しています。

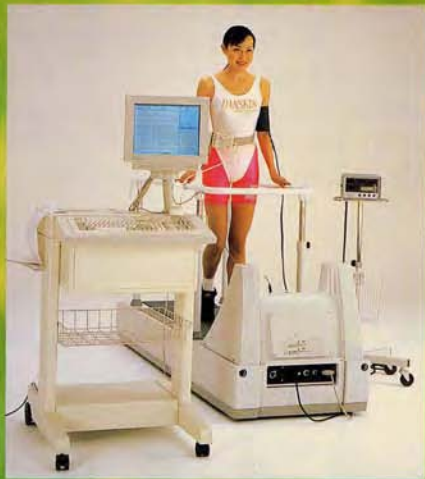
汎用超音波画像診断装置

心臓および腹部の断層像を描出し、各種疾患を診断する機器。心臓弁の異常、腎臓結石等の診断によく活用されています。



ストレステストシステム

世界電子工学の最高峰マサチューセッツ工科大の優れたテクノロジーから生まれ、突然死を予知します。世界最優秀の運動負荷装置です。



心臓ペースメーカー

心臓のリズムが正常でない患者の体内に発振器を植込み、そこから発する電気刺激により、心臓のリズムを整えます。13gの超軽量のペースメーカー患者さんの負担を軽くしています。

■営業の概況■

当期における我が国の経済は円安にともなう輸出の増加および消費税率引上げに対する駆け込み需要等により景気回復基調は維持しているものの、金融不安・消費税率引き上げの影響等、先行きの不透明感も拭い切れません。

当医療機器業界におきましても、上半期は電波法改正にともなう医用監視装置の更新需要が好調に推移しましたが、下半期はその反動や販売競争の激化・価格破壊と、総じて厳しい状況でありました。

当社はこのような環境の中で業績の向上に努めるべく、ニーズに対応した新製品の市場投入に加え、在宅市場およびテレメータ市場において積極的な販売活動ならびにサービス体制の強化を推し進め、売上高42億72百万円(前期比8.6%増)、経常利益53億96百万円(前期比3.5%増)、

当期利益26億28百万円(前期比13.6%増)と、増収増益を達成することができました。

市場別では、国内売上高は395億75百万円(前期比7.4%増)、輸出売上高は25億96百万円(前期比31.5%増)となりました。

これを部門別に見ますと、生体検査装置部門は心電図自動解析装置、長時間心電図記録器およびパルスオキシメータの売り上げが好調に推移し、売上高は152億84百万円(前期比16.4%増)となりました。

医用監視装置部門は、電波法改正による更新需要の一巡から、売上高は60億16百万円(前期比17.1%減)、治療装置部門は人工呼吸器・ペースメーカー・在宅用酸素濃縮器ならびにデフィブリレータが好調な売れ行きを示し、売上高は106億45百万円(前期比18.0%増)、その他部門は、

売上高 (単位:百万円)



当期利益 (単位:百万円)



上記部門の器械装置に使用する付属品および消耗品類ですが、売上高は102億25百万円（前期比8.5%増）となりました。

当期の設備投資の総額は、7億66百万円で主として工具器具等の購入のための投資であります。なお、設備投資の所要資金は自己資金を充当し、当期中に特別の資金調達は行っておりません。

医療は疾病構造、社会・経済環境が変わる中で、常に変化してまいりました。

特に我が国の医療供給体制は地域格差はあるものの、量においては国際的にも高い水準に達しており、医療技術の高度化、医療供給体制のネットワーク化、そして医療施設におけるアメニティの向上等、“質の充実”が重要な要素となっております。

また、これからの本格的な高齢化社会を迎えるにあたり、健康医療、在宅医療、地域医療、救急医療等に対する対応が、当医療機器業界に与えられた社会的使命と思われまます。

こうした環境に対応する為、当社はユーザーニーズの収集を積極的に行い、医療技術の進歩に即した新製品開発体制の拡充を最重要課題とし、社会の要求に応えるべく、製品開発を継続的に推し進め、国際的にも競争力のある高品質な製品を安定的に供給致します。

また、国内外での販売体制ならびにサービス体制の強化を図り、市場の動向を迅速に捉えながら、経営の効率化を積極的に推進してまいります。

1株当たりの当期利益（単位：円）



総資産（単位：百万円）



■貸借対照表■

(平成9年3月31日現在)

■資産の部

■負債の部

科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	40,138,458	流動負債	11,757,013
現金預手	15,133,500	支払手形	4,238,150
受取掛手	90,371	買掛金	3,854,822
売掛金	14,455,156	未払金	1,135,286
有価証券	743,365	未払法人税等	1,518,459
商製原材	1,587,674	未払事業税等	420,244
貯蔵品	2,539,707	前受金	81,024
仕掛品	1,004,543	預り金	29,902
前払費用	956,464	賞与引当金	400,000
前払費用	145,748	その他の流動負債	79,123
短期貸付	124,646		
未収入金	87,068	固定負債	1,919,272
その他の流動資産	2,644,707	退職給与引当金	809,765
貸倒引当金	684,400	役員退職慰労引当金	1,063,400
	141,102	その他の固定負債	46,106
	△ 200,000		
固定資産	13,264,464	負債合計	13,676,286
有形固定資産	4,809,043		
建物	2,004,119	■資本の部	
構築物	68,427	資本金	4,387,000
機械装置	80,304	法定準備金	9,497,146
車両運搬具	29,849	資本準備金	8,683,563
工具器具備品	656,898	利益準備金	813,582
建設仮勘定	1,953,777	剰余金	25,842,490
	15,666	任意積立金	22,783,200
無形固定資産	14,539	事業拡張積立金	300,000
借地権	3,500	固定資産圧縮積立金	83,200
施設利用権	11,039	別途積立金	22,400,000
投資等	8,440,881	当期末処分利益	3,059,290
投資有価証券	2,461,697	(うち当期利益)	(2,628,992)
子会社株	3,744,653	資本合計	39,726,636
出資株式	81,863	負債・資本合計	53,402,922
子会社出資金	74,541		
長期前払費用	359,890		
長期前払費用	603,523		
保険積立金	1,326,215		
その他の投資等	388,496		
貸倒引当金	△ 300,000		
投資評価引当金	△ 300,000		
資産合計	53,402,922		

貸借対照表関係注記

1. 子会社に対する短期金銭債権 16,865,465千円
2. 子会社に対する長期金銭債権 359,890千円
3. 子会社に対する短期金銭債務 2,925,952千円
4. 有価証券に含まれている自己株式 456千円
5. 有形固定資産の減価償却累計額 4,324,741千円
6. 貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している電子計算機一式があります。
7. 重要な外貨建て資産及び負債

売掛金	400,934千円 (US\$ 3,230千)
投資有価証券	401,990千円 (US\$ 3,850千)
子会社株式	883,754千円 (US\$ 6,800千)
長期貸付金	359,890千円 (US\$ 2,900千)
買掛金	870,818千円 (US\$ 7,017千)
	795,867千円 (DM 10,773千)

8. 保証債務

子会社の金融機関借入に対する保証	
国内	250,000千円
海外	322,039千円 (US\$ 2,595千)
9. 輸出手形割引高 328,761千円
10. 1株当たり当期利益 135円49銭

■損益計算書■

(平成8年4月1日から
平成9年3月31日まで)

科 目		金 額
		千円
経常損益の部	営業損益の部	42,172,155
	営業収益	29,682,820
	営業費用	6,821,984
	営業利益	5,667,350
	営業外損益の部	450,988
	営業外収益	108,440
	営業外費用	325,166
	経常利益	5,396,040
	特別損益の部	47,047
	特別損失	47,047
税引前当期利益		5,348,992
法人税及び住民		2,720,000
当期繰越利益		2,628,992
前期中間繰越利益		579,701
利益準備金積立額		135,821
当期未処分利益		13,582
当期未処分利益		3,059,290

損益計算書関係注記

子会社との取引高

売上高	38,020,894千円
仕入高	9,522,685千円
営業取引以外の取引高	213,708千円

■利益処分■

科 目	金 額
当期未処分利益	3,059,290,296 円
これを次のとおり処分いたします。	
利益準備金	283,167,837
利益配当金	213,441,910
(1株につき)	
普通配当 8円	
特別配当 1円	
記念配当 2円	
役員賞与金	56,000,000
(うち監査役賞与金)	(1,700,000)
別途積立金	2,000,000,000
次期繰越利益	506,680,549

- (注) 1. 平成8年12月9日に135,821,630円(1株につき7円)の中間配当を実施いたしました。
2. 利益配当金は、自己株式190株を除いて計算しております。

■会社の概要■

設立年月日 昭和23年7月6日
資本金 43億8,700万円
営業目的 医用電子機器の製造・販売および輸出入
主な取引銀行 株式会社東京都民銀行
 株式会社三和銀行
 株式会社東京三菱銀行
 株式会社富士銀行
 株式会社第一勧業銀行
 株式会社北陸銀行
 株式会社横浜銀行
 安田信託銀行株式会社
 商工組合中央金庫

■主な提携・仕入会社

シーメンス社(ドイツ)
 シーメンス・エレマ社(スウェーデン)
 ペースセッター社(スウェーデン)
 エンドソニックス社(アメリカ)
 パス社(アメリカ)
 コーブ社(アメリカ)
 富士電機株式会社
 株式会社堀場製作所
 株式会社フクダ産業

■主な納入先

全国各大学医学部附属病院
 官公私立病院
 診療所
 その他医療機関

■株式の状況

①発行する株式の総数 30,000,000株
 ②発行済株式の総数 19,404,000株
 ③当期末株主数 2,298名

■役員 (平成9年6月27日現在)

代表取締役会長	福田	孝
代表取締役社長	福田	孝太郎
専務取締役	野口	亮
専務取締役	高橋	隆
常務取締役	原口	輝夫
常務取締役	山村	剛
取締役	竹内	清
取締役	大表	良一
取締役	鈴木	勇
取締役	島田	正勝
取締役	瀬川	進行
取締役	岩本	雅久
取締役	春山	一
取締役	有吉	良幸
常勤監査役	小川	良吉
監査役	岡本	芳
監査役	田村	鐵
監査役	青木	彌九



本 社
東京都文京区本郷3丁目39番4号
(〒113) ☎(03) 3815-2121代



本郷事業所
東京都文京区本郷2丁目35番8号
(〒113) ☎(03) 3814-1211代



白井事業所
千葉県印旛郡白井町中宇中台305-1
(〒270-14) ☎(0474) 92-2011代

フクダ電子グループ

フクダ電子北海道販売株式会社
フクダ電子北東北販売株式会社
フクダ電子南東北販売株式会社
フクダ電子新潟販売株式会社
フクダ電子北関東販売株式会社
フクダ電子西関東販売株式会社
フクダ電子南関東販売株式会社
フクダ電子東京販売株式会社
フクダ電子東京南販売株式会社
フクダ電子東京西販売株式会社
フクダ電子横浜販売株式会社
フクダ電子静岡販売株式会社
フクダ電子長野販売株式会社
フクダ電子北陸販売株式会社
フクダ電子名古屋販売株式会社
フクダ電子三岐販売株式会社
フクダ電子京滋販売株式会社
フクダ電子近畿販売株式会社
フクダ電子南近畿販売株式会社

フクダ電子兵庫販売株式会社
フクダ電子岡山販売株式会社
フクダ電子四国販売株式会社
フクダ電子広島販売株式会社
フクダ電子西部北販売株式会社
フクダ電子西部南販売株式会社
フクダライフテック北東北株式会社
フクダライフテック南東北株式会社
フクダライフテック新潟株式会社
フクダライフテック常葉株式会社
フクダ電子関東特器株式会社
フクダライフテック東京株式会社
フクダライフテック横浜株式会社
フクダライフテック長野株式会社
フクダライフテック北陸株式会社
フクダライフテック中部株式会社
フクダライフテック三岐株式会社
フクダライフテック関西株式会社
フクダライフテック南近畿株式会社

フクダライフテック兵庫株式会社
フクダライフテック岡山株式会社
フクダライフテック四国株式会社
フクダライフテック広島株式会社
フクダライフテック九州株式会社
フクダライフテック南九州株式会社
フクダバイタルテック株式会社
フクダインターベンションシステムズ株式会社
フクダ電子アメリカコーポレーション
FUKUDA DENSHI USA., INC.
北京福田電子医療儀器有限公司
エフエフソニック株式会社
株式会社フクダ電子多賀城研究所
株式会社フクダ物流センター
フクダ電子技術サービス株式会社
エフアンドエル株式会社
株式会社フクシン
株式会社メディカルエレクトロタイムス

■株主メモ

決 算 期	毎年3月31日（年1回）
定 時 株 主 総 会	毎年6月開催
配 当 金	3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主または信託の受託者、登録質権者に定時株主総会終了後お支払いいたします。 中間配当金は、取締役会の決議があった場合に、9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主または信託の受託者、登録質権者にお支払いいたします。
基 準 日	毎年3月31日（定時株主総会において議決権を行使することができる株主の確定日） そのほか、必要ある場合は取締役の決議によりあらかじめ公告いたします。
名 義 書 換 代 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 安田信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 安田信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問合せ先)	郵便番号 135 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 安田信託銀行株式会社 東京事務センター内 安田信託銀行株式会社 証券代行部分室 電話 (03)3642-4004(大代表)
同 取 次 所	安田信託銀行株式会社 全国各支店
1 単 位 の 株 式 の 数	1,000株
単 位 未 満 株 式 買 取	
買 取 請 求 取 扱 場 所	上記名義書換代理人がお取扱いします。
手 数 料	東京証券取引所における1単位 \times $\frac{\text{買取株式数}}{1,000\text{株}}$ 売買委託手数料相当額
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞